

刺激満載のタイ

日本語パートナーズとしてタイに派遣されている、ワッタナー美枝子です。チョンブリー県、バンブン市にある、プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクールで、日本語指導に関わることはほぼ6か月。レポート2回目の今回は写真を中心に見ていただきたいと思います。



朝7時の出勤時、学校の美しい正門前。720名の生徒全員、校内で寮生活をしているため登校する姿は見られません。ちなみに、先生方の多数も校内の寮で生活しています。



正門を入ると左手には、3羽のガチョウも遊ぶ美しい池。



朝礼前に、隣町のお寺から9名のお坊様（「進歩する」という意味を持つ「ガーオ」と同じ発音の「9」はラッキーナンバーとされる）を迎え、ミルク、袋入りラーメン、くだもの、現金など思い思いのお布施を準備してタンブン（功德を積むこと）に臨むこともあります。この日は先生も生徒も純白のユニフォームで正装しますが、10月末までは亡き国王の服喪

期間でしたので、体の一部に黒を身に着けています。お坊様たちが抱える鉢の中身は脇に控える生徒が持つ大袋に随時空けられ、その大袋が一杯になると後からついてきているトラックの荷台に空けられていきます。



毎朝7時20分から始まる朝礼では、「国歌」に続き「校歌」をブラスバンドの演奏に合わせて元気に歌い、その後生徒たちはその場に座るよう指示され、先生たちからの話を聞きます。朝とはいえ炎天下での朝礼は、正直私には少々辛い時間でもあります。



通常のクラスの他に、日本文化も楽しんでもらおうと、できるだけ多くの生徒たちに、時には先生たちに、文化紹介をしています。写真は書道と浴衣体験の時のものです。



3日間続くスポーツ大会では様々な球技のほか、各クラスの創作ダンスが大会の目玉で、

ずらりと並んだ先生方、ジャッジの前で自分たちこそ最高のダンサーとばかりに踊りまわります。



観戦中、お菓子の他、このようにストローが差し込まれた冷たいジュース入りの大きな容器が回されて、生徒たちが次ぎ次ぎに喉を潤していきます。



スポーツ大会の締めは、隣町から学校までの並木通りを通行止めにして、40分ほど練り歩く「仮装パレード」。私も、他の先生たちに交じり、タイの衣装を着せてもらい、お化けになりきってみました。

ワッター美枝子
2017年11月21日